

特定非営利活動法人 日本免疫学会
平成 26 年度前期 Tadamitsu Kishimoto International Travel Award
研究発表報告書

申請者氏名	金 暉	会員番号	0033756
申請者の所属・職名	大阪大学免疫学フロンティア研究センター・免疫化学研究室・特任研究員		
出席会議名	The 15 th Annual European Congress of Rheumatology		
発表論文タイトル	Autoantibodies in rheumatoid arthritis specifically recognize IgG heavy chain complexed with HLA-DR, which is strongly associated with rheumatoid arthritis susceptibility		

実施結果:

この度は Tadamitsu Kishimoto International Travel Award に選出していただき大変光栄に存じます。岸本忠三教授をはじめ選考委員、理事会の先生方、事務局の方々に厚くお礼申し上げます。また、推薦人となっていただきました大阪大学免疫学フロンティア研究センター・免疫化学研究室の荒瀬尚教授に深く感謝いたします。

私は 2014 年 6 月 11 日から 14 日まで、フランスのパリにおいて開催されたヨーロッパリウマチ学会 (The 15th Annual European Congress of Rheumatology, EULAR 2014) に参加し、“Autoantibodies in rheumatoid arthritis specifically recognize IgG heavy chain complexed with HLA-DR, which is strongly associated with rheumatoid arthritis susceptibility” という演題にてポスター発表して参り、多くの方々と討論することができました。

発表内容は、関節リウマチに感受性アリの MHC クラス II 分子と IgG 重鎖との複合体が、関節リウマチ患者由来の自己抗体の特異的な標的であるという最近の我々の発見を発表しました。実際に患者さんの関節滑膜を解析すると、同様な複合体が検出されたことから、MHC クラス II 分子/IgG 重鎖複合体が関節リウマチの原因分子ではないかと考えております。我々は他の自己免疫疾患においても、MHC クラス II 分子に提示された変性タンパク質が、自己抗体の標的分子として病因に関与しているのではないかとという新たな仮説を立てて、さらに研究を進めていきたいと考えております。

EULAR は、リウマチ学に関する最新の話題が世界中から集まる最高の学会で、多くの最新の話題を得ることができました。また、私の発表の際には、いろいろな方々から興味を持っていただけたことが、何より嬉しかったです。今後もこのような発表の機会があったら、積極的に参加したいと強く感じました。